



平成 28 年 1 月 1 日 現在

世帯数	5,913 戸
人口	15,656 人
男	7,566 人
女	8,090 人

波田地区 落語会

11月28日(土)に波田公民館講堂で文化委員会主催の「落語会」が開催されました。今年も、好評だった昨年に引き続き、落語家・古今亭菊生師匠をお迎えしました。



が来場されました。

菊生師匠は、89'年4月に古今亭圓菊に入門し、92'年9月に二つ目に昇進し「菊翔」となり、02'年3月真打に昇進し「菊生」となりました。「名人でなくて良い、一番笑いのとれる噺家になる」を目標に活躍しています。

当日は寒い日でしたが、開演前には、会場に用意した椅子も埋まり、100名近くの方

菊生師匠は、紺色の着物姿で壇上になると、最初に、もっとも有名で短い小噺の参加型落語を披露、「せいのお」の合図で会場が一致団結して小噺に参加し、お客さんの笑いのツボをわしづかみにしたところで、第一幕の演目「親子酒」を熱演披露しました。

この噺は、お酒飲みの話です。

――親父が息子と「自分も禁酒するからお前も禁酒しろ」と約束した。しかし、親父は息子が出かけている間に、約束を破ってしまいいお酒を飲んで酔ってしまふ。そこに息子が帰って来た。しかし、息子も……

――扇子を器用に使いながらお酒を美味しそうに飲み、酔った仕草、酔って入ってくる足音など、仕草や物音ひとつひとつに魅せられて、親子のやり取りが面白く、会場からは終始大きな笑いが起こっていました。



10分間の休憩の後、黄土色の着物に着替えた菊生師匠。第二幕は、演目「肥瓶(こいがめ)」を披露

肥瓶とは江戸時代に便器に使用していた瓶のこと。

――江戸っ子の兄弟分が、2人の兄貴分の新築祝いに何か祝い物を贈ろうとするが、銭がない。そこで、知り合いの道具屋で、安く買える瓶があるというので、見せてもらおうとこれが肥瓶。兄貴分の家に台所用の水瓶だと言って持ち帰り、そこから起きる騒動。

――これがまた、兄弟分のやり取りが面白く、笑いのボルテージも最高潮、今にも瓶の臭いが漂ってきそうでした。

落語をテレビ「笑点」で見るとはありますが、生の落語は初めてでした。実際にそこにあるかのようにテンポよく演じる師匠の仕草に、音や舞台照明、周りの笑い声なども加わって場

が盛り上がり、テレビでは味わうことのできない体験となりました。

今回で3度目のお迎えとなった古今亭菊生師匠は、『来年も呼んでくれないと祟りが起こります。』との言葉を残し、会場を後にしました。

落語に触れ、おおいに笑ってストレス解消ができて、開演前は寒かった会場も噺が進むにつれて熱気に包まれ、元気がいっぱい笑顔があふれました。

最後に落語会を開催していただいた文化委員の皆さん、楽しいひと時をありがとうございました。

趣味は「継続」

私が公民館に在職していた頃は、生涯学習推進のため多彩な講座が開催され、終了後はクラブとして誕生・継続されていきました。

私も「水墨画クラブ」に入会し、指導を受けてきました。が、講師亡き後は時々想い出しながら筆を握っています。

30代には盆栽を趣味とし松や梅・大輪菊を育てていました。が、ある菊花展で「小菊の盆栽」に出会い興味を持ち約



60歳過ぎに友人の勧めで「書道」を始めました。師や仲間にも恵まれ、作品展を目標に25年余続けています。

また、6年前美術館で刻字展に出会い、会場で作者から彫り方などの説明を受けることができました。早速知人から頂いた廃材を使い、自宅で「刻字」を独学で始めました。刻字は手先を使うので脳の活性化になるのではないかと思います。趣味は「継続」すること、歳を忘れ日々を過しています。

30年続けています。菊作りは、土作り・苗作りと多忙ですが、私の健康維持には最適と思っています。現在もクラブ活動として続け、菊花展を目標に頑張っています。

14区町会

楽しかった親睦旅行



域が精密機械製造で東洋一と言われた時代を思い出させる数々の名品に触れることができました。

また、温泉ホテルに帰る道筋にある諏訪大社・下社秋宮も参拝しました。平成28年は7年に一度の御柱祭で賑わうだろうと思いがながら参拝しましたが、ちょうど七五三のお参りの家族で賑わっていました。親睦会では、高齢者と若者が世間話やカラオケで楽しい時間を過ごしました。

親睦旅行で年代を超えた区民相互の交流と親睦が得られ、大変有意義な1日となりました。

11月8日に毎年実施されている14区町会と町内公民館合同の事業である敬老会を兼ねた親睦旅行に参加しました。町会は45軒と少ないですが、当日は29人が参加し、75才以上の参加者は90才を最高齢に17人を数えました。

行く先は下諏訪温泉です。温泉で体を癒し、美味しい料理で親睦を深めることが目的です。親睦会までに時間があがり、オルゴール館を見学に行きました。オルゴールの始まりから現在までの紹介があり、諏訪地



フラワーアレンジメント



12月27日(日)に7区町内公民館の恒例行事

であるフラワーアレンジメントを、グリーンベルの野村先生を講師に招き実施いたしました。

受講者は総勢31名で、テーマはお正月にちなんで『宝船』です。使用するお花は全部で11種類です。まずは松、続いて竹、葉ボタンは赤色・白色、南天、小菊、セフィアナ、デンファレ、笹、高野マキ、カーネーション、最後に帆を取り付けて完成です。

受講者の半数の方は毎年参加されているベテランさんですが、今年初参加の方々も半数おり、和やかな中にも緊張気味の雰囲気でもありました。

まず、講師の先生からお花を生けるオアシスという土台になるスポンジに、印を付けることから始まりですが、これが最も大切だということでした。

松の長さを生ける位置、そして傾きです。この松に

合わせてこの後生けるお花の高さ、位置が決定するからです。ベテランの皆さんは慣れた手つきで迷いも無く、一回で鉢を入れて生けていますが、初めての方はどうしてもカットに迷いが有り、余計な時間を費やしているように見受けられました。



作業が進むにつれ、ベテランの皆さんは余裕も出てくるため、隣の席の方にアドバ

イスをする光景が見られるようになりました。

作業は一時間もしますと大半の方が生け終わり、それぞれお隣さん同士で作品の良し悪しを話しながら、自分の生けた作品に見入っていました。全員が生け終わった後、女性役員が用意したコーヒールとお茶菓子で、雑談をして楽しいひと時を過ごしました。

今年の生け花のテーマは『宝船』です。早速作品を持ち帰り、玄関に飾って頂きました。「丙申」の今年、幸多い年で有りますようお願い申し上げます。



私が昨年体験したびっくりほんのお話しをさせて頂きます。

私は地元で商売をしています。私様からの愛顧で仕事ができ感謝の日々でございます。しかし春から夏にかけて、とても憤りを感じる出来事が起きてしまいました。それは丹精込め年数をかけて育てていた鉢花が、夜の内に無くなったことです。それも一度ではないのです。交番にも相談し防犯カメラも付けました。毎日家の中へ片付けた方が良かったのでしょうか。網を掛けておけば良かったのでしょうか。とうとう10鉢近く消えてしまったのです。当時は連日のことで恐怖も感じましたが、良い花が無くなってしまうと、さすがに来ませんね。きつと人間の仕業だと思えます。それも花の事に詳しい知識のある人だと思えます。高価な宿根草ばかり持ち去っているのです。「花泥棒」って本当にいるんですね。花の好きな人に悪い人はいないはずなのに、自宅観賞用なのか転売目的なのか、あの花達はとうとうなくなってしまったのでしょうか。今年と同じ事のないよう願うばかりです。皆様もどうかお気を付け下さい。